

# 和地ひとみレポート

**No.9**

市商工会主催『東やまと 環境・リサイクルフォーラム』

リサイクルで市民と共に収益を生み、町を作る姿勢を学ぶ



## ■基調講演

### 『戸田市でのリサイクル運動の広がり』

…7月7日午後、商工会議所で行われた「東やまと 環境・リサイクルフォーラム」に参加しました。当日は市民の方々の参加も多く、また市の職員の方も参加し、非常に内容の濃いフォーラムとなりました。

…主催者である東大和商工会の加藤会長の開会挨拶から始まったフォーラムは、先進的なリサイクル運動を行っている埼玉県戸田市市民生活環境クリーン室のクリーン推進担当副主幹 吉田善枝氏の基調応援から始まり、開口一番「みなさん、ゴミはお金になるんです!!」という力強い言葉から会場一帯が引き込まれた熱のこもった講演は始まりました。

…戸田市はJR埼京線で新宿から約20分になり、年々人口が増え、現在は平均年齢が39歳弱、約12万人が住んでいる町です。また、競艇もあるため、そこからの収入が市の財政に大きく寄与しているのではという予想とは反対で、競艇からの収入割合は低いとのこと。それよりも以前から多くあった倉庫街、そして競艇場があるということで『灰色の町』というイメージが強かったとのこと。そこで、市を灰色の町などと呼ばせないという行政が奮起し、町を花いっぱいにし「灰色ではなく色を持たせよう」という活動を行うと共に、年々増えていく人口に対応してゴミを本格的にリサイクルすることにしたそうです。

### ■市の財政のために市民と協力して『稼ぐ』

…「ゴミ処理にはお金がかかる」という認識でいると、何も生み出さないゴミに大切な税金を使うこととなります。よって様々な自治体がゴミの削減を呼びかけているのですが、戸田市ではゴミはお金になるという取り組みを行っています。市民はゴミを12分別しなくてはなりません、市民も税金を削減できる、また、楽しく取り組めるアイデアやグッズが市から提供されることで協力しやすい体制が工夫されています。

…戸田市は借金のない市ベスト5にランキングされているそうですが、それは人口が増えているからということだけではないそうです。人口が増えれば経費も増えるところを、行政がお金を稼げる仕組み＝リサイクル運動の推進で税金の無駄をなくすだけではなく、お金を生み出す仕組みをつくったからこそ、この財政状況が維持できているとのことでした。

## ■リサイクルと教育、福祉を融合

…戸田市では、リサイクルフラワーセンターを持ち、そこで年間8万鉢の花苗を生産。そして、そこで雇用しているのは週100名の障害者の方。ここでは補助金と給与を足せば障害者の方が自立できるだけの給与を支払い、ボーナスも出しているそうです。また、生ごみ専用バケツを作り、そのバケツで生ごみを持ってきてくださった市民には8鉢の花苗を交換。リサイクル運動を障害者雇用、花いっぱいのまちづくりにつながっています。

…市民の古新聞などの古紙は市で回収し、業者に販売。業者に販売する価格は市で毎週日経新聞で相場を確認し交渉しているとのこと。牛乳パックからは団扇を作り、無地のものを学校に配布し、児童たちはオリジナル団扇を作成し、リサイクルについて学びます、また、宣伝入り団扇として会社や商店にも販売。リサイクル紙で作ったティッシュも環境のことを考えている企業をPRできるということで、市が企業に販売しています。ここで得た収益は一般財源と区別し貯蓄。環境、福祉に使用できる予算としているそうです。行政が工夫をし、税金が減り、お金を稼いで町が豊かになる。様々な取り組みで、全市民参加のまちづくりにつながるリサイクル運動。今年は、花のまちづくり国際コンクールに参加。優勝を目指しているとのこと。戸田市の話は行政というより、民間企業の話の聞いているような感覚でした。

## ■東大和市でも市民がリサイクルに奮闘

…フォーラム第2部では、湖南自治会の有価物資源の自主回収の取り組みや、「東大和ごみレスくらぶ」の取り組みも発表されました。当市でも多くの市民の方が熱心にリサイクル活動を行っています。その取組を大きく広めるのが行政の役割だと思います。今回のフォーラムで得た情報を東大和市として活用し、様々な動きを実現させることができれば、フォーラムの意義も高まります。

…「戸田市の現在の財政は健全だが、財政には危機感をもっている」「戸田市のゴールは出ていきたくないと言われる市にすること」という吉田市の言葉は印象的でした。置かれている背景の違いを挙げるのではなく、行政の姿勢を学び、守りだけではなく、攻めの政策が必要です。工夫の余地は当市にもあると思います。